会　報
通巻 142号　発行2023.12.10

Der Wind
（風）

湘南日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局：〒251-0025　藤沢市鵠沼石上 1－1－1
江ノ電第2ビル7F
Tel：0466-26-3028　Fax：0466-27-5091
E-mail: jdgshonan.official@gmail.com　https : //jdg-shonan.ciao.jp/

日独交流のヴォランティア活動

湘南日独協会名誉会長　大久保　明

1974年1月にドイツの地を踏み、それから50年になろうとしています。3度の勤務・通算13年のドイツ勤務は1993年4月の帰国で終わりました。職業人としての大半をドイツ関連で過したことから、日独友好のためのヴォランティア活動へ参加しようと考え、日独協会（東京）へ入会したのは1994年でした。

実際に活動を始めたのは、1997年のドイツのフリゲート艦バイエルン号（Fregatte Bayern）の東京訪問でした。1998年には湘南日独協会が設立され、早速入会し、機関誌の名付け親になりました。そのDer Wind を2010年の3月号通巻68号より現在142号まで編集を担当しています。

2004年にはFIFAワールドカップの日本韓国大会のヴォランティア、2003年には日本初のオクトーバーフェストが横浜の赤レンガ倉庫広場で開催され、ミュンヘンからの楽団員のお世話をし、湘南日独協会の設立直後の合唱団アムゼルをステージでミュンヘンから来た楽団との共演を実現させ、私も歌いました。2011年日独交流150周年記念行事にアムゼルは東京で演奏する機会を得ました。

2010年には、ドイツ大使館の要請もあり、発起人の一人として、横浜日独協会を設立、2014年より日独協会（東京）の監事の役割を担っています。

ヴォランティア活動は時間的制約を受けることも時にはありますが、年々スピードを増す世界の動きも直接感じることが出来、そこに楽しみもあります。

湘南地方は古くから文化人が多く住み、ドイツとの縁も深いものがあります。ドイツ語文化のみならず、揺れ動く世界の中で一人では出来ないことも、多くの皆さんと一緒に、多くの人達が心豊かに日々を送れるためのお手伝いをしたいと願っています。

役員候補としてお手伝い頂ける方をご推薦下さい！

湘南日独協会では、活動を支える役員の恒常的なマンパワー不足に悩んでいます。加えて高齢化の影響（健康上の問題・家族の事情など）大で、このままでは現在の活動維持が困難な状況となっています。
この状況打開の為、皆様の御友人・お知り合いで、ご協力頂けそうな方がおられましたら、是非、湘南日独協会・事務局までご連絡下さい。（ご本人のご了承を得たうえで）

お手伝い頂く内容： 協会諸活動・運営に関わる企画補助・連絡・調整等の業務

推薦頂きたい方のイメージ：ドイツや日独交流に関心があり、時間が比較的自由に使える会員の方。
e-mailが使用出来、word/excelの基礎知識のある方。
ドイツ語は必須ではありません。

身分： 来年4月総会で理事任用含みですが、当面は湘南日独協会のヴォランティア会員です。
ヴォランティアですので、役員同様、無報酬です。

上記を踏まえご紹介頂きたく、御協力お願い致します。

連絡先：　湘南日独協会・事務局
連絡方法：　同封返信ハガキ又はHPから
e-mail：jdgshonan.official@gmail.com
連絡内容：　推薦者氏名
被推薦者（ご当人）氏名及び連絡方法。
（e-mail address or tel）

湘南日独協会・会長　島　新

ゾーリンゲンの国際合唱祭(Chor Fest)に参加して

会員　アムゼル団員　高 垣　孝

ゾーリンゲンの会場で、主催者総監督のLein Dieterさんと

去る10月7日にドイツのゾーリンゲンのコンサートホールで、国際合唱祭(Chor Fest)が開催されました。偶々10月2日～5日までクロアチアのドブロヴニクで私が所属しているフレンドシップ・フォース（国際ホームステイ交流団体（注）、本部は米国アトランタ)の世界大会に参加する機会があり、直後の7日のゾーリンゲンのChor Festは日程的に好都合でしたので、どんな合唱祭なのか聴きに行くことにしました。

前日の6日にドブロヴニクからフランフルトに空路移動し(約2時間)、7日朝フランクフルトから列車でゾーリンゲンに向かいました。列車が遅れたため、ゾーリンゲンのコンサートホールに着いたのは開始５分前のギリギリでした。入場するとすぐ主催者総監督のLein Dieterさんと司会者のWirgit Walterさんと挨拶することができ、ほっとして席に着きました。

見回すと会場は2千名ぐらいは収容でき、天井も10メール位の高さもあり、広々とした音楽ホールでした。席はフラットでしたが、舞台が比較的高く舞台のステップも3段ぐらいあったので、見やすく、会場の空間が広いので音もよく響きました。参加者は地元の方及び地元の合唱団の参加者を中心に数百名ぐらいで、思ったより少なく、わたしの知る限り、ドイツ以外の参加者(聴衆)はベルギーを除いてほとんどいなかったようでした。即ちドイツ以外の参加合唱団はアムゼルを含めほとんどビデオ録画か、Zoomによる参加だったと思います。しかしながら会場の後方で、4人のエンジニアチームが音響、映像、ビデオ、Zoom等のパネルを巧みに操作していたと思われ、通信上のトラブルもなく舞台の大画面から、迫力ある映像と生出演とをほとんど変わらない音声で聴くことができました。国際合唱祭と言っても聴衆がほとんど地元だったので、司会者もドイツ語で進行していました。私のカタコトのドイツ語では、十分聞き取ることができなかったのが悔やまれました。

さて司会者は先ずゾーリンゲン市長のお祝いのメッセージを伝え、インドネシアの学生合唱団のZoomによるライブ合唱から始まりました。

11ヶ国から18合唱団が参加し、うちドイツ国内からはゾーリンゲンを中心に8合唱団の参加でした。参加合唱団の内訳は混声合唱団が８、女性合唱団が４、男性合唱団が３、スクール合唱団が３でした。日本からはアムゼルだけの出演でした。

アムゼルの順番が来ると、ビデオ録画が始まる前に日本に居られる指揮者の梶井先生と司会者のインタビューがオンラインで上映されました。梶井先生が元気な姿で流暢なドイツ語で対応されていたので、安心して写真(動画)を撮っていたのですが、司会者が日本からはるばる来たということで、突然会場に居る私の名前を呼んで聴衆に紹介したので、慌てて立ち上がって手を振って応えました。

そのような演出で会場も盛りあがり、本番の合唱はビデオの音声が広い会場に響き渡り、ビデオ撮りしたリリスホールより迫力が感じられました。合唱が終わるとそれまでなかった大歓声が沸き起こり、大きな拍手を受けました。休憩時間中にもWunderbar！と多くの方から声をかけられました。本当に来てよかったと旅の疲れも吹き飛んだ感じでした。

その他全体の合唱を聴いて印象に残ったのは、

・‘Time to Say Goodbye’を合唱曲としても美しいハーモニーで歌ったベルギーのコア・アカデミー。

・オーストラリアのシドニー・ドイツ国際スクールのジュニア(5～8歳)の可愛らしい合唱。

・戦禍にもかかわらず、Zoom配信による教会で‘美しき青きドナウ’や‘ウクライナ民謡’を歌ったウクライナの女性合唱団。

・最後にゾーリンゲンの合同合唱団と聴衆で一緒に歌った‘Klänge der Freude’はイギリスの作曲家エルガーの行進曲‘威風堂々’の有名な旋律で、ドイツ語の合唱曲として初めて聴いたこと。

・その他、ポピュラーな映画音楽、ミュージカルや、南米、アフリカのリズミカルな合唱を楽しむことができたこと。

次は４年後の開催とのこと、年齢的に行くのは難しくなりますが、少なくともビデオ参加できることを念願して、今後も合唱練習に励みたいと思います。
最後にこの機会を与えて下さった梶井先生やアムゼルの先輩諸氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

梶井先生は会場からの直接インタビューに、ご自宅から応じられました。スクリーンの写真です。

スクリーンの合唱団アムゼル

高垣さん撮影の会場のステージの２団体

（注）フレンドシップ・フォースについて

高垣　孝

フレンドシップ・フォース(以下FFと略)とは、お互いの文化を理解し、認め合い、友情を深め世界平和に貢献することを目指す、非営利の国際ホームステイ交流団体です。

ジミー・カーター元米国大統領が、これからは民間平和外交が第一という理念の元に、ウェイン・スミス氏と元ファーストレディーのロザリン・カーター(去る11月19日96歳で逝去)が中心となって、1977年地元ジョージア州アトランタを本部としてFFを設立しました。現在は世界約60ヶ国に350以上のクラブがあり、日本にも26のクラブがあります。
(写真はFF創設者Rosalynn CarterとWayne Smith)

FFは世界の各クラブが少なくとも年に１回、他国のクラブに１週間のホームステイ渡航と、１週間のホームステイ受入れを実施するのが基本的なルールです。

私が所属している西東京クラブは1989年創立以来現在まで、渡航17ヶ国 21クラブ、受入18ヶ国33クラブ、延べ約１千人の海外のクラブの方々とのホームステイ交流がありました。

2年に1回の世界大会では、世界のクラブが一堂に集まり、過去のホームステイ交流の仲間との再会、新しい仲間との交流、将来のビジョン、新しいホームステイの在り方、高齢化等の諸問題について話し合います。

2023年10月ドブロヴニクで開催された世界大会

９月例会

講演会「子規の遺したもの」

講師　正岡子規研究家　会員　藤野　満氏

寄稿者 新谷　亮介 氏

湘南日独協会にて「子規の遺したもの」という講演があるとの誘いを受け、協会の会員ではないが、興味ある演題なので参加した。

講師の藤野満氏は、子規の母八重の妹の十重（とえ）の夫の藤野漸の曾孫にあたり、子規については幼少の時から聞かされていただけでなく、数々の資料を基に、子規の姻戚関係や交友関係についても、豊富な知識を持ち子規を囲む周辺の人々やその系譜等をも広く知ることが出来た。ここでその全貌を全て紹介するのは紙面の都合もあり、その一部を紹介して報告と感想としたい。

講師　藤野 満 氏

子規の遺したもの

・子規は俳句、短歌の改革者と謂われる。明治以前は専ら知識階級の閑遊趣味に近いものであった俳句や短歌を、一般の人達の間でも広く嗜めるようにしたのは子規であった。

・散文の世界でも、子規は短かくかつ明晰な表現の仕方が最も良い美しい文章表現であると、日本語の書き方の模範を示した。

・子規は亡くなる前の最期の8年間、脊椎カリエスの激痛に苦しむ病床で、句会や歌会あるいは小説、新体詩についての会を催し、自分でも俳句、短歌、随筆他で多くの秀作を遺した。齢36歳にして一生を終えたが、多くの人は人生悠長に構えすぎてはいないかと、世の人に警鐘を鳴らすことも忘れていなかった。

・ 子規が唯一熱中したスポーツが野球だったが、「ベースボールいまだかつて訳語あらず」と書いて、自身の幼名升（ノ海南江ル）からノボールと仮称していたが、一高の同窓生の中馬庚が後に野球を「やきゅう」と評したのが正式な名称となった。子規はルールなどについて詳しく解説するとともに、「バッター」「ランナー」「フォアボール」「ストレート」「フライ」といった野球用語をそれぞれ「打者」「走者」「四球」「飛球」などと現在も使われている用語を訳したことで知られている。(2002年野球殿堂入り)

子規の生い立ちと姻戚関係

・正岡子規（常規）は松山藩士の正岡常尚と大原観山の長女八重の子として、慶応３年１０月１４日に松山で生まれた。６歳の時に父が逝去、母八重に育てられ、八重は父の藩校教師である大原有恒（寒山）に教育を委ねた。

・観山は江戸幕府の学問所昌平黌で舎長まで務めた松山でも才名高い漢学者。殊に漢詩は詩律荘重、格調精錬。子規は観山から直々に漢学を教わり素読で才能を発揮、観山を超すことを夢に勉学に励む。

・子規７歳の時に観山死去、観山亡きあと、河東静渓（碧梧桐の父）、土屋久明（明教館助教授）に学ぶ。他に、 加藤拓川（観山の三男、八重の弟）や、八重の妹の十重（とえ）の夫の藤野漸（謡曲宝生流名手、槍術の達人）など子規の母の親族が、親代わりとなり子規の面倒を見る。

正岡子規と夏目漱石の出会い

・正岡子規と夏目漱石は大学予備門で初めて会い、二人は寄席好きで一緒に通うことになる。子規は漱石が漢文に秀れていることを発見し、漢文で書簡を取り交わし、意気投合する。

・漱石は子規から俳句を教わり、また写生文を教わったことがきっかけとなり、小説家となった。子規と出会わなかったら漱石はいなかったとのことだ。子規・漱石とも、切磋琢磨して、文学界の頂点に立とうとしていた盟友であった。

碧梧桐 と高浜虚子について

・虚子とは中学で同級。虚子は秀才だったが、碧梧桐は『ヘイ』と呼ばれ腕白。明治22年松山に帰郷した子規から碧梧桐と虚子は野球と俳句を習う。

・虚子は碧梧桐の１歳年下、共に三高に入学するも学制改革のため 一時廃科になり、仙台の二高に移るが、共に学風が合わないと退学し、東京に戻り女義太夫に熱を上げたり、放蕩生活をし、子規の顰蹙を買う。

・子規から柳原極堂が松山で立ち上げた俳誌『ほととぎす』の東京移管に伴い、虚子は編集を任され、小説随筆も入れた文芸誌にする。子規の弟子として、生存中はそれほど才覚ある振る舞いはしていないが、高弟として、俳句を身に着けたことから、「小生の相続者は虚子と自ら定め置き候。」と子規は語っていた。

子規の絶句　明治35年9月18日

碧梧桐が筆に墨をつけ、紙を妹の律が画板に支え、仰向きで書いた絶筆三句：

- 「糸瓜咲きて痰のつまりし仏かな」
  痰をとった５分後
- 「痰一斗糸瓜の水も間に合わず」
  さらに５分後、
- 「をとゝひの糸瓜の水も取らざりき」

「後書き」

講演終了後、講演者から時間の都合で話せなかった事について、以下の追加の説明があった。

・正岡子規は短歌や俳句の改革者としてその名が知られているが、それ以外の面でも優れたものを遺した。
・俳句や短歌以外で最も評価できるものは、日本語の書き方を示してくれた事である。
　尾崎紅葉と同級だったことも有り、言文一致運動に参画し、ジャーナリストの子規は、口語文は自分が思ったように書けば良い、普段、話す言葉をそのまま文字にすれば、文字は書けると世間の人々に字を書くことを奨励した。
・司馬遼太郎も子規の文章に出会い、大きな感銘を受けた。司馬氏はそれまでの歴史小説の殻を打ち破り、子規の文章から学び１人称で簡単な文章を書き、多くの読者を作った。
・子規のおかげで日本の文盲率は急速に減少し、識字率は大幅にアップした。

・子規は、新聞小日本に入社した中村不折から絵の真髄を学び、写生の心こそ、文芸の基本であるということを知り、俳句も見たままのことを文字に写しとれば良い、自然の美しさを文字で切り取ることが文芸の真髄だということに気がついた。散文の文章でも同じで、新聞を通じて、文章を書くときの写生の心の大切さを説いた。
・漱石はこの写生の心を用いて、様々な作品を残した。子規の弟子の伊藤佐千夫やまた漱石の教えを受けた芥川龍之介など、多くの作家たちが世に出た。
・また子規は病床に於いて「山会」というものを催し、小説の文章は山がなければ面白くない。起承転結を作る必要があると教えた。当時の文壇に小説の書き方について一筋の光明をあてたのも子規であった。
・自由詩の世界でも形にとらわれない詩を、新体詩というジャンルで遺し、日本の詩人たちに大きな影響を与えた。
・子規は意思を伝える手段である言葉の改革につき大きな貢献をした文学者ともいえるが、３０代の若さにして、これだけのことが成せたのはやはり子規の人柄に惹かれ、お教えを乞いたいと子規の弟子になったような人たちが多くいたことだと思う。友人や親戚のみならず、年が親子ほど離れた人たちまで、子規のところに集まったのは、子規が人を惹きつける何か強いオーラを持ち合わせていたということでしょう。交友関係は、現代を生きる人たちにとっても頗る参考になります。

子規没後１２１年、人と人との関係が希薄になりつつある現代、友情や人を思いやる気持ちを持つ子規の生き方こそ、人生で最も大事であると思う次第です。

懇親会　宗平にて

ミニコンサート

2023．１０．２１
藤沢市民会館

ミニコンサートも３年目を迎えました。お馴染みの演奏者で会場との一体感を感じるコンサートだったと思います。高橋さんの思いを寄せたラフマニノフの曲を通じてのロシア音楽、松野美智子さんは、バッハとは異なるヴィターレのシャコンヌ等、素敵な演奏を聴かせて頂きました。伊藤志津子さんの古箏のゆったりとした中国の長閑さ、鬼久保洋治さんの手作り弦楽器の爽やかな響き、そして合唱団アムゼルのゾーリンゲン・コーラスフェスティバルへのビデオ参加の、良く知られた日独の曲の演奏、私は司会を務めながらすっかり楽しんでしまいました。　　当日進行役　大久保　明

鈴木藤沢市長のご挨拶

松野美智子さんと高橋愉紀さん

高橋愉紀さん

伊藤志津子さん

鬼久保洋治さん

合唱団アムゼル

第２０回
ふじさわ国際交流フェスティバル　2023.10.29

担当理事　伊藤志津子

湘南日独協会のブース

湘南日独協会はこのフェスティバルの第９回から毎年参加しています。

当日は早朝から昼前までの雨にはがっかりしましたが、やがて明るい陽ざしに恵まれ藤沢駅に隣接するサンパール広場は大賑わいとなりました。

会場を見渡すと若い年齢層が例年に比べて多く見受けられ、海外からの留学生グループもさまざまの国際交流団体から参加していて国際色豊かでした。

湘南日独協会のブースでは会員８名がスタッフで、協会の宣伝をする人、販売する人、商品を準備する人と皆で協力しながら楽しく働きました。

今年もドイツビールとブレッツェルを販売し、グミベアとバウムクーヘンをたくさん準備して立ち寄って下さった皆さんにプレゼント！小さなお子さんにも大変喜ばれました。

藤沢駅北口のサンパール広場の会場風景

第２８回
鎌倉国際交流フェスティバル　2023.11.5

担当理事　鬼久保洋治

鎌倉大仏そして多くの観光客の前での演奏

第２８回目を迎えたフェステイバルは参加１７団体、パフォーマンスは６団体「ダンケシェーン」は演奏者９名、サポート7名。協会からは島会長、伊藤理事、合唱団アムゼルから志賀リンデさん水谷さんの応援でスムースに演奏ができました。数年前までは藤沢と同じようにブースでの参加もしておりましたが、今回もパフォーマンスのみの参加でした。会場は鎌倉大仏の高徳院境内で、写真の様に大勢の観光客の前での演奏でした。

天候に恵まれ、秋のかまくら大仏様の前でアルプホルン、アコーディオン、カウベルと多彩な楽器の演奏は参拝者、観光客、旅行中のドイツ人との交流もでき、国際交流を感じる１日となりました。

当日鎌倉の主催者スタッフとして会場におりました、横浜日独の向井副会長から、素晴らしい演奏だったとの感想が寄せられました。

会場の鎌倉大仏の高徳院境内

10月例会　講演会

家事調停委員回顧－家族法改正のうねりが続く－

講師 元横浜家裁調停委員 会員 笹　信 夫 氏

会員 木原　健次郎

夫婦別姓は是か非か、単独親権から共同親権へ移行すべきか、性的Minorityに於ける性の変更に手術を要件とすべきか否か、同性婚は認めるべきか否か等々、家族法改正に関する議論が近年、喧しい状況となっている。これらはいずれも、価値観・主義主張によって意見の分かれる、複雑で解決困難な問題だ。これらの新しい問題とは別に、勿論旧来型の離婚・認知・遺産相続等に係る争いがあり、その現場に最初に立つのが家裁による家事調停委員会だ。

講師の笹信夫氏

笹氏は、その中の民間から選ばれた調停委員として、横浜家裁に10年間勤務され、人間の愛と憎しみの事例に触れ、争いの解決に努力された。その貴重なご経験からくるお話をお聞きする機会に恵まれたので、以下、簡単に感想を述べてみたい：

・上述の新しい問題点の中には、同性婚等、近年の多様性社会志向から表面化した、伝統的価値観とは異なるものもあり、個人的には、展開によっては、米国の中絶法に見る社会の分裂にまでいく危険性もあるかと危惧する。笹氏によれば、「人間の社会は複雑で、民法はその複雑な社会を統べる法であるから、複雑さに耐えて思考しなければならない」（東北大・水野教授）との事。民主主義社会に生きるという事は、結構シンドイ事だ。

・離婚調停に於いては、一般的に女性の方が、男性より非妥協的だというのは、やはり、女性の方が、永年の結婚生活の中で我慢してきたという意識が強いという事だろう。ある日突然、離婚を切り出されるような事のないよう、男性の皆さん、日頃の行いが大事ですよ（自戒を込めて）。

・離婚後の養育費が約束通り支払われない比率は、母子家庭（シングル・マザー）では７割、父子家庭（シングル・ファーザー）では９割との事。子供を犠牲にする離婚は罪深い。救済の為の制度改善に、当該者だけでなく、社会全体で政治に圧力をかけるべきだろう。

・家族法の埒外となる事実婚（同棲）はどうか？結婚しない男女が増えている。（収入に関係なく）。この人達は法律の保護外という不安定さを自力で乗り越える覚悟があるのだろうか。

・笹氏は、蛮カラでなる仙台・旧制１中（現仙台高校）卒業。同期には、後の俳優・菅原文太も。
１中時代はフランス文学に憧れ、白黒のフランス映画を良く見られたそうだが、東大（法）に入学。ドイツ語は高校１年から履修、大学受験はドイツ語で受験。東大卒業後、住友銀行入行、東京のゲーテインスティテュートで勉強、辻邦生や塩野七生への憧れが捨てきれず、退職後は、Schriftstellerへの道を目指し、まずドイツ語のbrush upの為、Goethe Institute, Freiburgに留学。半年後、家庭の事情で帰国。人からの勧めもあり、調停委員となられた。調停委員には、高い知性と共に、円熟した人格が求められており、笹氏のお人柄から適任だったと思います。

・その後、湘南日独協会に入会、現在もドイツ語の勉強は続けておられ、ご本人の弁によれば、「ドイツ語は私の人生の伏流水」との事。

・これまでの人生を振り返って、人生で大事なのは３G（Geld, Gesundheit, Gelegenheit)と言われる。ドイツでSchriftstellerとなる夢は、残念ながら家庭の事情が許さず、Gelegenheitについては、思い残す点がおありかと思いますが、人生、思い通りいった人は例外的ではないでしょうか。
Gelegenheitについては、誰も思うところがあると思う。笹氏には、これからも３Gに留意し、蛮カラspiritで夢を追い続ける事を期待したいと思います。

講師を囲んで、向かって左から２番目が木原健次郎氏

「ドイツの暮らし」
ドイツの鉄道のPünktlichkeitと、緊張感

棚橋フリースあこ

私の夫Arndt-Olaf Friessは、湘南日独協会のドイツ語講座で長らくドイツ語を教えています。茅ケ崎に住んでおりましたが、昨年、夫とともに夫の家があるハンブルクにほど近いニーダーザクセン州の田舎に移り住みました。小さな町ですが、緑の多い住みやすい所です。ドイツは素晴らしいのですが、次のようなことに悩まされてもいます。なお、夫のドイツ語講座は、日本とZoomでつなげて授業をしていますので、全く問題はありません。

最近のドイツ鉄道（DB）と連携する私鉄の遅れは、ひどいものと言えるでしょう。私たちの最寄り駅から出ている、ニーダーザクセン州のメトロノーム(私鉄鉄道会社)は現在、どの電車に乗っても、遅れます。遅れると、日本のラッシュアワー以上にひどくなります。メトロノームは二階建て電車です。二階への階段、通路、上も下も満員になり、ひどく混みます。

この電車はブレーメンから来るので、スーツケースを持った乗客も多いのですが、そもそもスーツケースを置く場所がありませんし、棚も小さいです。最寄りの駅から1時間に２本、ハンブルク行きが出ます。ハンブルクまで25分くらいなので車で行くよりも快適ですが、その電車がAusfallen 運休となることもあります。そして、電車が来ない理由が、Baustelle 工事で遅れています、というアナウンス、電車が来ないで待っていると、次のアナウンスは電車の修理をしています、など変わる事も最近とても多いです。その理由は人員不足が大きい理由だそうです。

先日も電車の中で発車を待っていましたら、ドアが閉まらず動くことができませんとアナウンスがありました。ハンブルクに行きたくても、こうして電車が来ない、遅れるということがとても多く、時間通りとはなりませんし、特に乗り継ぎのある人は不安になります。

ハンブルクの中央駅は大変大きいので、14ホームあります。しかも、１本のホームで2本の電車が停まることがあります。私鉄電車はDBと同じ線路を使いますし、DB優先ですのでこの電車が遅れると、他も遅れるということになります。

日本の様に新幹線のための線路があるわけではなく、ドイツのICEは他の電車と同じ線路を使用します。遅れるだけではなく、何番線からの発車かそして停車位置を確認した後も緊張が続きます。「○○行きは、１４番線から１３番線に変更になりました」とアナウンスがされたら、人の大移動が始まります。人々が移動しはじめたら、これは何か起こっている！？と察知して、どこ行きの列車かを掲示板のサインをチェック、重いスーツケースを持っていても、エスカレーターが壊れていれば、急いで階段を駆け上がり、他のホームに移動するのです。いかに日本の鉄道管理がすばらしいかをドイツで改めて思うわけです。

現在のドイツでの鉄道の移動は、緊張感と、ワクワクがシーソーのようになることは間違いありません。ご利用に当たってはどうぞ時間にかなり余裕をもってお出かけください！

読書会「ドイツ文学を原語で楽しむ会」

「昔、ドイツ語を勉強したけれど、それ以来、ドイツ語とはずっとご無沙汰、今やっと時間ができたので、ドイツ文学を原語で読んでみたいと思ったことはありませんか」の呼びかけで２０１９年１０月開始した「読書会」は４年となりました。

月２回（現在　第２、第４月曜日　15時～17時）、各２時間、藤沢駅南口より徒歩５分、藤沢商工会議所ミナパークを会場にして開催しています。

ヘルマン・ヘッセの「デミアン」を取り上げて、コロナ禍には時に休み、約２年を費やして読了、その後は、同じヘッセの、「アウグスツス」トーマス・マン「トニオクレーゲル」カフカ「断食芸人」ヘッセ「小人」へと、苦しみながら、楽しく取り組んでいます。

現在の「小人」は最終に近く、次にはヘッセの「少年の日の思い出」を取り上げる予定です。この小説は、今年の７月例会の講演会でドイツ文学の岡田朝雄先生に講演を頂いたこともある、日本では教科書にも取り上げられた作品です。短い短編ですので、２月には新しいテキストに入る予定です。

今後は小説ばかりではなく、韻文にも取り組む予定です。ゲーテ、シラーなど、歌曲の詩文も準備中です。
関心をお持ちの方は以下へ連絡下さい。

大久保 明　akiraokubo@jcom.zaq.ne.jp

劇場便り 35

ブレーマーハーフェン　志賀トニオ氏

今シーズンはMusiktheater（音楽部門）の最初の演目はプッチーニ作曲の"トスカ"だったのですが、そのプレミエが近づいた頃にそれと並行して私の指揮者としてのプロダクションであるミュージカル"Spamalot"（スパマロット）の稽古が始まりました。

この"並行して始まったと"いう所が実はポイントで、今回のミュージカルは今までのようにMusiktheaterのプロダクションではなく、初めてSchauspiel（演劇部門）のプロダクションとして上演する事になったのです。この作品はイギリスのコメディグループ、モンティパイソンの映画Die Ritter der Kokosnuss（日本では英語名のホーリーグレイルで知られている）を元に作成されたブロードウェイのミュージカルです。ということは、オリジナルでは当然ミュージカル専門の歌手が演じており、ソリストは男性７人、女性１人。アンサンブルは男性６人、女性６人で構成されていました。その後この作品はドイツ語版がケルンで初演されて大ヒットし、以降ドイツ中の劇場で上演されるようになりました。

出演者は歌って、踊れて、演技も出来る必要があり、ソリストによってその難易度にかなりの偏りがあるのが配役の難しい点となっています。例えば、ランスロット役は歌は簡易であるが騎士としての演技力が必要、ロビン役は歌と踊りに長けている必要等。その結果ドイツの劇場では、音楽部門、演劇部門、バレエ部門が内在している為、それぞれの部門から役に合った人を配役するようになりました。そしてブレーマーハーフェン歌劇場では、ソリスト８人全員を演劇部門で配役し、アンサンブルを音楽部門の合唱団で、そしてそれとは別にダンサーを市内のダンススクールから１０代の女性達をオーディションで採用する事になりました。合唱団は２０名、ダンサーは８名ですので、オリジナルよりもかなり大人数となりました。

人数が多い方が舞台映えし易いので、出来上がりを考えれば良い事なのですが、仕事量は増えるので大変です。そして指揮者としての大仕事は、ソリスト８人の俳優達を歌えるようにしなければならない事でした！そこでさっそく昨年の３月に彼等との音楽稽古を始めました。俳優の多くは楽譜も読めませんから、何度も旋律をピアノで弾いて、聞いて覚えてもらったり、録音してもらったり。こういう時には、日本にいたときにアマチュアの音楽家を指導した経験が非常に役立ちました。唯一の女性役は作品中最も歌唱力が必要なのですが、彼女の為には特別に本場ブロードウェイの歌手に特別レッスンをお願いしました。その歌手は先シーズン、私のプロダクションのミュージカル"ヘアスプレー"に出演していたので、その機会を利用しました。こうして少しづつ稽古を進めていけたのですが、４月下旬から演劇部門の重要な演目の稽古が始まり、新シーズン開始以降も別の演目の稽古がびっしりでなかなかスパマロットの稽古時間を取る事ができませんでした。幸い合唱団には時間的余裕があり、彼等との稽古を進める事が出来ました。

そして９月下旬、いよいよスパマロットの立ち稽古開始です。そしてさっそく問題発生。当初合唱団が参加する予定であった騎士達のシーンは、予算の関係でその数の衣装を作れないとの事で、男性ソリスト６人だけで行って欲しいとの事。騎士達のシーンは３声部に分かれる箇所で歌うのが難しく、合唱団に頼っていたのでした。それからは毎日のように俳優達とその箇所の稽古をしたのですが、やれどもやれどもできるようになりません。一人で歌えても、他の人が別の声部を歌うと、つられてそちらの声部を歌ってしまうのです。しかも同時に難しい振り付けもこなさなければなりません。それでも諦めず、稽古の仕方を工夫して少しづつ形になっていきました。合唱団も苦手の踊りの振り付けを覚えていきましたが、こちらも時間との闘い。ダンススクールのダンサー達は検討していましたが、急遽まとめ役として劇場のバレエ団から助っ人を呼ぶ事に。こうして山あり谷ありのプロダクションでしたが、最終的には俳優たちの演技力の高さが光り、合唱団が音楽面でサポートし、ダンサーのフレッシュな息吹と、そこにオーケストラのサウンドが融合し、大変楽しく且つ聴き応え、見応えのあるプロダクションとなりました。

湘南日独協会主催　湘南日独協会創立25周年記念

茶道と香道を通して日本文化を楽しむ会

初めての方にも楽しめるようレクチャー付きです

☆☆

ドイツからのお客を迎えて、日本文化の紹介の機会を何度か行いました。今回は「お茶とお香」の基本を経験する機会を設けました。初めての方も、勿論男性の皆さんも遠慮せずご参加ください。新緑の里山でのお茶・お香の会は改めて日本文化の奥深さを知り、また我々の日常生活の奥に流れている各種の習わしを知る良い機会です。外国人の方、若い方も歓迎です、お誘い参加頂けることをお待ちしています。

香を聞く

「源氏物語」を全体のテーマとしています。来年2024年のNHK大河ドラマは源氏物語『光る君へ』です。

日時　令和６年５月１９日

会場　宇庵　横浜市栄区田谷町

会費　４千円

お席

・A座礼（10時～12時25分）

組香－お茶

・B立礼（10時～12時25分）

お茶ー組香

立礼でのお香の会

＊組香…香当て遊びとも言われて、いくつかの香を聞きわけ当てるゲームです。

・C座礼（12時30分～14時55分）

お茶ー銘香席（小間）

*小間（躙り口から入る小さな茶室）では、組香はありません。由緒のある銘香を聞く（嗅ぐ）席です。

ABC各コース10名です。

会場　宇庵内路地

テーマは「源氏物語」

香は源氏香という組香で、お茶はお道具やお菓子で源氏物語を楽しんで頂きます。

ご指導　茶道　裏千家師範　　小川 宗和 様

香道　泉山御流師範　小島 邦香 様

募集の詳細は次号及びホームページでお知らせいたします。

どうぞご期待ください。

座礼でのお香の会

☆☆

湘南日独協会・新年会のご案内

会員同士の親睦の為、下記のように新年会を企画しました。新入会員の方々も是非ご参加下さい。

日時：2024.1.14（日）　12:00～14:00

会場：銀座アスター藤沢店

Tel：　0466-23-3744（JR藤沢駅から徒歩3分）

会費：¥3,500（但し飲物は別途、各自支払）

集合：　2024.1.14（日）11:45 JR藤沢駅改札

お申し込み：

会報同封の返信ハガキ、又は、HP経由で。

先着順。定員に達し次第、締め切ります。

湘南日独協会・事務局

新入会員紹介

堀口 みゆき 様

前号で紹介しました、「河合 董」様は「河相 董」様です。訂正し深くお詫び申し上げます。

編集後記

- 写真が紙面を賑わせていると思いますが、読むことよりも見ることの方が容易に多くの情報を得ることが出来るように思います。
- ヴォランティア活動についての記事が合唱団アムゼルの活動報告の、高垣さんの活動にもあります。
- 一人ひとりの思いが行動が必要とされていると思われます。
- ドイツの現在を、ドイツ在住の、フリースあこさんにご寄稿頂きました。一般の情報には無い新鮮な発見ではないでしょうか。
- 年々時間の経つのが早くなるようです。元気で皆さまと新年を迎えましょう。　（大久保）

湘南日独協会催事カレンダー(2023年12月～2024年04月) 12月01日現在の情報です

12月	見て聴いて楽しむ音楽史　しばし休会	
	1/27, 2/24の講演会は日曜日でなく土曜日ですのでご注意下さい。場所も今後全てミナパークに変わります。	
	読書会	11日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 25日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０６　会費：1,000円
	談話室SAS	12日（火）　17:30-19:30　忘年会(居酒屋[宗平])　会費：4,500円
	SWZ	21日（木）　16:00-19:00　忘年会
01月	新年会	14日（日）　12:00-14:00　銀座アスター藤沢店　会費：3,500円、飲み物各自支払い 藤沢市南藤沢2-1-2ザ・プライム６F　Tel:0466-23-3744 JR藤沢駅より徒歩３分
	読書会	22日（月）　ミナパーク５０６　会費：1,000円
	談話室SAS	09日（火）　15:15-17:15　江ノ電第2ビル　4階　会費：1,000円
	SWZ	18日（木）　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円
	講演会	27日（土）　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 演題：　ドイツ敗北必至なり一三国同盟とハンガリー公使大久保利隆 講師：　高川邦子氏　（翻訳家、大久保利隆の孫） 概要：　第二次世界大戦中、ドイツ不利を本国に伝え続け、移動困難な中帰国し、ドイツ敗北必至と早期終戦準備を説いて回り、天皇にも伝えた大久保利隆ハンガリー特命全権公使。孫である講師がその秘話を披露。 懇親会：有り
02月	読書会	12日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０６　会費：1,000円 26日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０６　会費：1,000円
	談話室SAS	13日（火）　15:15-17:15　江ノ電第2ビル　4階　会費：1,000円
	SWZ	15日（木）　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円
	講演会	24日（土）　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 演題：　いつか来た道～銀行危機の系譜 講師：　斎藤和夫氏　（湘南日独協会会員） 概要：　最近、海外のかなり大きな金融機関が倒産したり、他の金融機関に救済されるケースが多くなってきています。金融機関取引をしていない人はいないと思いますが、講師の経験や海外及び国内の金融機関危機の歴史を紐解くことにより、今後の動向などを説明される。 懇親会：有り
03月	読書会	11日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０６　会費：1,000円 25日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０６　会費：1,000円
	談話室SAS	12日（火）　15:00-17:00　ミナパーク　Ｍ２　会費：1,000円
	SWZ	14日（木）　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円
	講演会	24日（日）　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 演題：　現在の世界の状況下でのドイツと日本の友好関係 講師：　ゼーンケ・グロートフーゼン氏（Dr. Soehnke Grothusen）駐日ドイツ大使館文化部長 講演はドイツ語で行なわれ、日本語の通訳付きです。 懇親会：有り
04月	読書会	8日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０６　会費：1,000円 22日（月）　15:00-17:00　ミナパーク５０６　会費：1,000円
	談話室SAS	9日（火）　15:00-17:00　ミナパーク　Ｍ２　会費：1,000円
	SWZ	18日（木）　15:00-17:00　ミナパーク５０７　会費：1,000円
	総会	28日（日）　14:00-15:00　ミナパーク５０５
	講演会	28日（日）　15:00-17:00　ミナパーク５０５　会費：1,000円 演題：　未定 講師：　未定 懇親会：有り

参加される皆様へ　準備の都合上、早めにお申込ください。

各催しは変更される場合があります　最新の予定を当協会のホームページでご確認ください。
URL ： https://jdg-shonan.ciao.jp/　　右記のQRコードからもアクセス出来ます